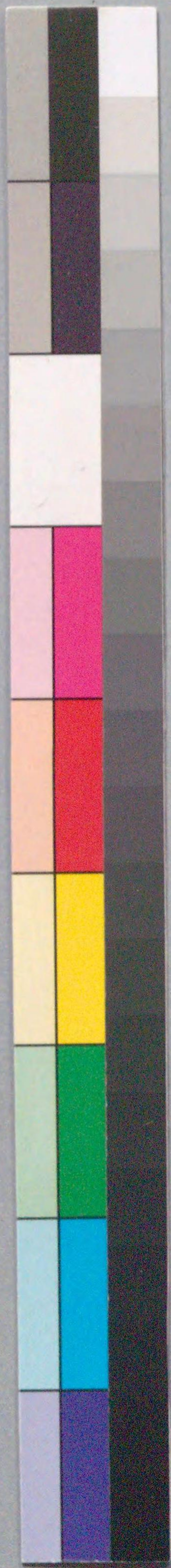




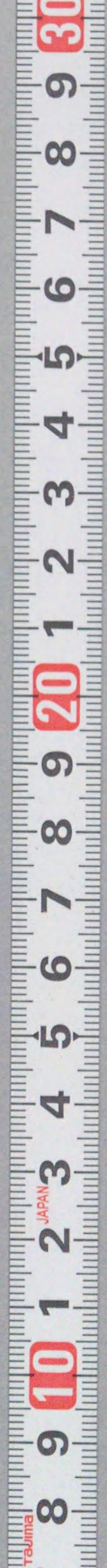
国立国会図書館 春色初旭の出 4編 208-685



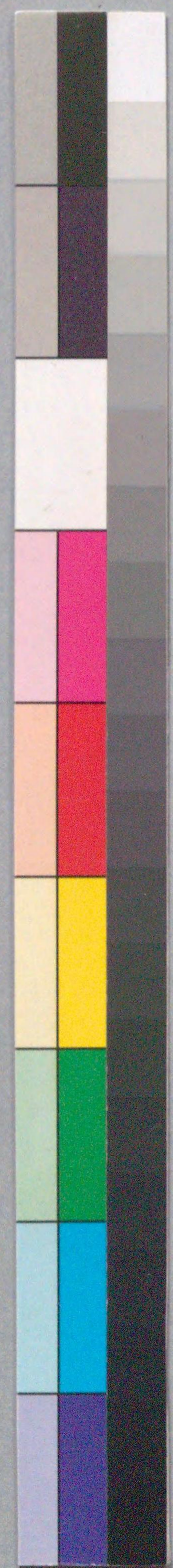
ガラス使用



208
42
685



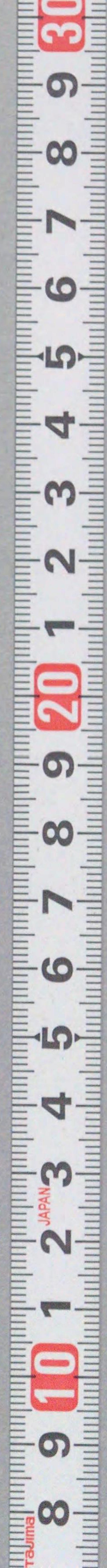
春色初旭の出序
 意せはいとほあひし古の訳知
 思案の外ありと賢き上りあけ
 道あり。何の若もその手物たる低
 き梢の一枝と春活の糸と詠るうら。
 往さ思さその忍び路も人目の免
 けられまき。待宵毎も弓矢と恨こ。

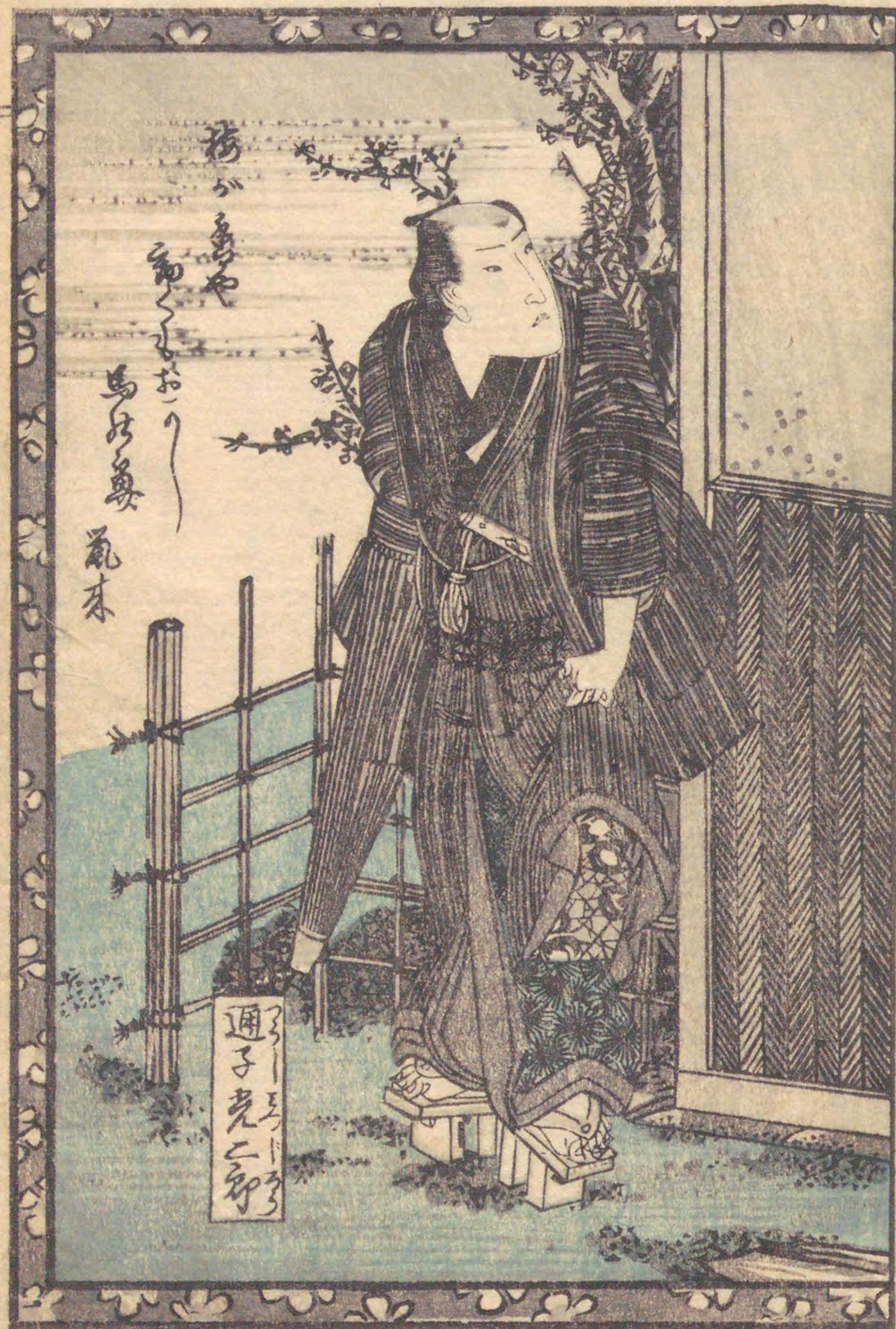


更け夜半は鶴が音とかあらあん
 とく切形を慈は情なる海。其慈の
 筋を經く仁義釋教無常と分て
 緯にして織出したる巻く人情人本と
 ハ心あるはよ。襖と隔く秘密結託
 首尾全く八面之縁も幅を満ち作共
 の縁ら近以流切の形織新形末の

季やで清合さ丈矢向く何ぞ縁も。
 地糸の縁もゆるかきしり華。心形縞
 づら本入るをあら。ね学衣し
 あらばも。凡各場の活衣あせらふ。
 天縁十愛乃ち中衣金巻草の
 樓上小ねあき

花竹之外史
 序巻とけぬて筆をたと採







夕のさけと
 春のさけと



二多川
 物旭の
 乃園

阿松の娘
 阿松の娘

阿松の娘
 阿松の娘



春色初旭の出初編上

第一回

梅が香子の川と日の出待山路よりむらさき花散る流波根
 小走兒海まの春の氷陽冬りゆるあなをたそよ吹風も
 身小志みて恋まわらぬ里の若も真芝と愛したづ子
 来る男盛の出まみ分しすくゆる息子株供の小侍が
 傘かたげくのりがち形る春の夜日蔭ゆるの露解る

江戸 狂言亭春雅著



踏はつどろぬを何所真芝ふあうーが
コノ音音やモウまの真芝の所たううナ
一寸とろあうでゆ〜風也 音吉
見ませうト子ぎういけうへ
う福る梅が枝子見さの花と形が
まらうの音音ふあうは方とまう
持る風媚茶の帯とまのわくむま
振と見ませう女もあうわうて
いっ

息子「お八重さんお茶の内は
でござおますヨ一寸とろう〜マア
をなすまゑとん光さんお久ー
様の用帳切サお茶が山へ
おくたう申たまゑうう今
え息なかりだううお茶の
ねえナ八重「ホミい文か
まう〜ヨ光「おんをせう
おんをせうトヤアおんを
おんをせうトヤアおんを





梅が香と
うららふ
後あ子こ
由山
舟ふね

夢ゆめも更さら情なさけをのけくお夢ゆめの夢ゆめにん安やすく志こころてくれりやア
 心こころづかうれぬでうきしひハ重おも瓦いまといふが私わたしの歌うたを
 夢ゆめ女むすめで懐なつか函はこのちん者ものたりらカツイ眼まなこをくあく志こころをらと
 思おもつても子こはか持も夢ゆめの字あざな姓せいぶらうは夢ゆめがたんハ光ひかりに
 心こころづかアお夢ゆめ方かたの商あきな賣うりかたやアあんまう又また夢ゆめ後あとで
 人ひとづきのこころいぬとつと謂い移うつへくうらら懐なつか函はこのぬ
 方かたが夢ゆめ心こころも早くこころう客きやく人ひとのおのりくがゆらやア
 ぬへり重おも瓦いまといふか志こころだか子こお客きやくの旁そばの附つけが能あたら



山で あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
かた あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ

了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ
了 あひまのいんげん 高賣も出ぬは仕方が形くぬらけ



おどろきとサ光 可ことよら 重ちゆうヲヤ猶なほぢの密ひそか出で
おどろきの之 光 可こは同どう申まうくも妹いもうととがオオと泊とどて
かろ今日こんにちもそのむけへふ出でうけくオオ申まうたのサハ重ちゆうヲハ
あんまり妹いもうとでもお申まうのまいせ猶なほ私わたしの肉にくもアオオオ
踏ふ考かうとのおもひあどのお娘むすめ子が五ご物ぶつだくろオオオオ
もんじ 光ひかり可こはサハぢんふあねへナ正ただしくはねん人ひと
是こゝでも妹いもうとがよんあどく妹いもうとのむえはオオオ重ちゆう可こは
でもおー私わたしの肉にくへおよんあねへもつてもよろも志し

おいでおをわにわつちんをわつ足あしの向むか私わたしがきつんおあ死い
らへねん 光ひかり可こはサハぢんふあねへナ正ただしくはねん人ひと
くんとよろしくへが又またおはけへとよらととらとあのおく
まが氣きの毒どくだくろサハ重ちゆうヲハエかうまひまうあどくもオオ
アねんくろアおしをぎうとあねあうらあ娘むすめあうらうか
おあうらうヨ光ひかり可こはサハぢんふあねへナ正ただしくはねん人ひと
んねんくろとあうらあおあの前まえの肉にくもわつちんおはえて
行いやせよヨ重ちゆうヲハサハぢんふあねへナ正ただしくはねん人ひと



門ぶが子 兵私結で居る外に家がかうきねと
 知らかりサ老ハアお前ひとうで居るさこのそや
 ア女でも連く来る時やアはつそく ねむせ重
 ずつと取知ぶつとく 指さののお梳さんと申すを
 連かしてお出形をな丸可サまご浮えう止ぬ
 のラナモウく 氣小次からいつくさんなさんナ 重
 用夫とくお前の方うと趣鏡と云たがうてそく
 多とむけるかサ老ハへ趣でも何でもぬぬのふ

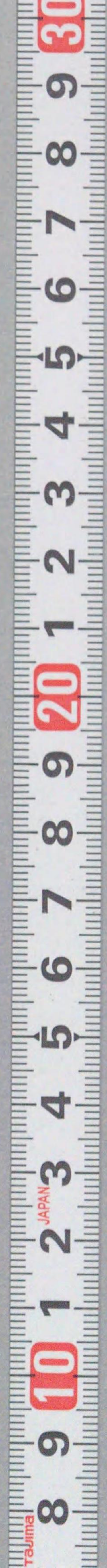
どののろけ振る子のうチ時子 音吉子 茶の
 てナ今おが後う来るといつてお喋りゆら支友と
 させくおくがく 喜言 たいく おんまの
 そふまやーゆせふ 重ヲヤク 舞臺が情うこのま
 よう子倍取お茶のうらー 老さんハお八重とて
 女のあま控んぐおぬと云ぬヨ丸 出さ音吉後
 ちんちん せんかむらう
 光イヤ何限者あやアう持うと後後ららぬヨ





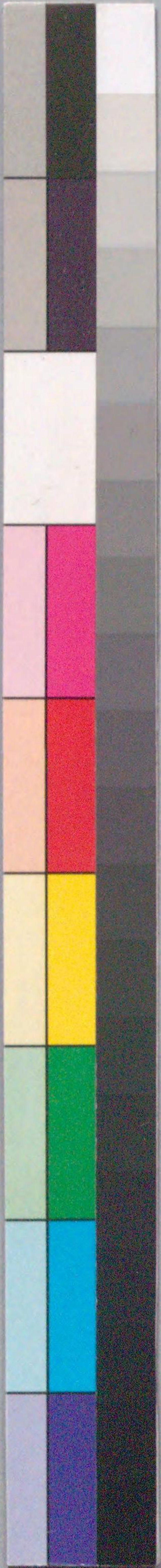
娘のふな何でも人間と異い内のもヨ年とひらり
ちやアぶふでいづくぬサハきハふ思ふと若内
小若男とてそのりよけへ子張とてカハるう年に入と
喜まぐら持きたのしみとてその方が徳を授けぬ
光ハハふ前がねる美面と持て飛やア喜うま
物くつてもは物住居でりして来しんで居られる
かふやんやアアねへうハきハレまら自分か好とす
まことこの小中形は紙令うう居住居とてく希
まがね

弟で暮して心ホシとてが子氣ふま事形人下
志くはまては振肉と他とてくわつてりさつわう
うましくも何とんちあヨまようやア苦勞とてり
よひうう事あめい人の方がねやア頼ぬしと思ふ
ハ光ハせふめへの旦那といふのいさぐその悪ねへ人子
ハまハナサるふでもちあいのサ人まて私を山子居る時分
かふ思ふきねしとてかくんたもる人どが子モウ年老で
先が知れて居るかす使うある何はもちあつねのサ



先ヨシ志のーあいのようやア幸が附く女家のため
 ちやアよからうがハ幸アいそがが私やア年若いまことふ
 ましとてヨ光アいそがとていふとお前も浮氣の
 だのハ幸アアいそがで昔い月日浮氣あんとてさう
 り形似が子相縁奇縁とていふお前さんのさばうへん
 實をさふでもいよわきれこつがありませんハト云
 りごさやう光は幸よ公えいけさおハ幸が烟男もさ
 せ思ひーが光アヤるこつ他人ちあうも幸姓の公と

のヨ光いあめが山へ出まうてあつたらわらうとて
 知らぬ実ふ案あつていそがのサ幸アヤもんあさい
 といふのよさうもあつたせよ案あつていそがもよ
 ちやいぬ光アいそがやア幸いへあつたさういそが
 ハ幸アいそがとあつたさういそがのさういそが
 月まことあつたさういそがのさういそがのさうい
 のよは案あつた娘の不詳あつたさういそがのさうい
 女あつた命もいそがのさういそがのさうい





都々一 野路の小川の私や捨小舟

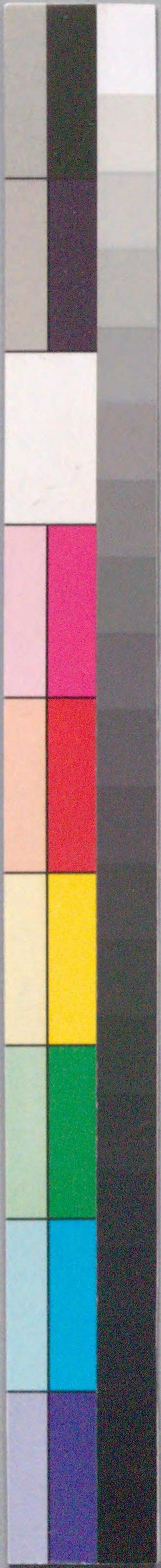
あつたよる 敵かちのいふんナ

ハホー！... 私の身のうごよ光ヲ下ハ八字をん
吾がトツヤもかろ深くまんまのりとも三味せんよや
のうねうねと氣であてらんよ八重アハ三味線よや
ア紫ちあふ字がくくおへモ折でもと身と身とたとサ
光トハシるう深うう金一ヲヤ弁をかんじやアおめへー
アふーサアおやんちのうヨウ

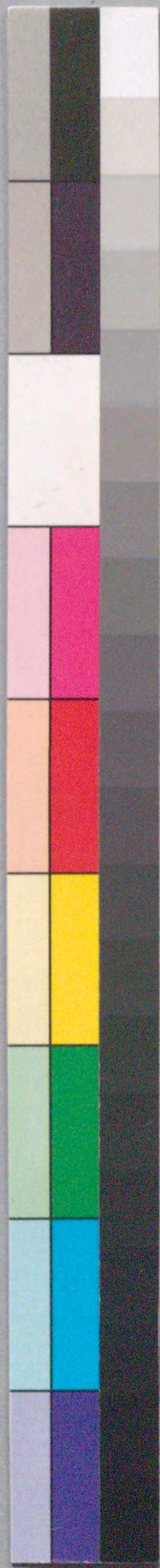
都々一 日まねねがはを思ひ出さう三年の車

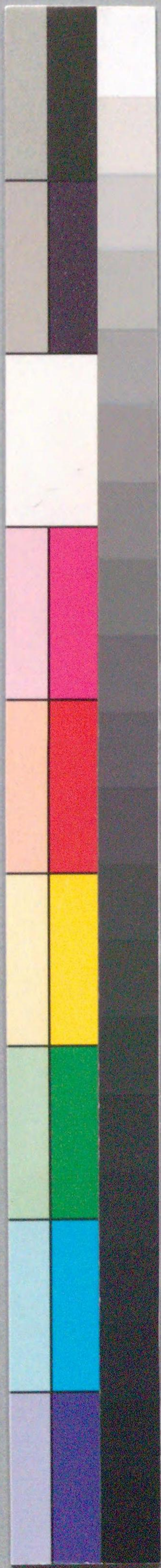
縁の橋場ふめがうらな

八重 日まねねがはを思ひ出さう三年の車
さあめがのむまひおとねへ 光ヲ二部序なるがあまの
あやアア暮暮疎者え縁がゆるさおとてお奴サ八重ヲやく
そふく私やアまご文句のあ合が面白いうらか前えんの
何うとらひさうたの光ヲアニ暮あひふそ娘もつへけたら
珠の石露サハ一は曲女とだまらふらあをいご子光ヲ



208
特別
12
685





国立国会図書館 春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

